

浅草ものづくり工房と周辺地域の関わりに関する研究

都市空間生成研究室
2141141 古家可梨

浅草ものづくり工房 皮革産業
JAPAN ブランド育成事業 浅草

台東区
クリエイター

1. はじめに

1-1. 研究の背景

古くから浅草は東京の中心地の一つであり、文化芸能のまちとして発展してきた。現在ではインバウンドの拡大が進み、浅草は国内外を問わず、日本を代表する観光地の一つとして多くの人々から親しまれている。しかし、観光客向けのまちづくりがさまざまな団体によって進められてきたことにより、新たな団体と古くからの地域コミュニティが混在している。かつて地元住民や、浅草を娯楽・産業のまちとして訪れてきた人々から親しまれていた浅草が、観光地としてのまちづくりを進める中で、もともとの魅力が薄れてきているのではないかと考える。

特に奥浅草地域には革職人や工房が集まり、皮革産業のまちとして認知され、浅草の地域産業として革製品が発展してきたという特性がある。革製品を扱う職人が差別されていた時代を経て、現在では浅草は革製品のまちとして海外からも注目されるようになり、浅草の革製品は「メイドイン浅草」としてブランド化されている。一方で、職人の高齢化による後継者不足が課題となっている。

1-2. 研究の目的

このような現状を踏まえて、伝統的な浅草の地域産業である皮革製品を今後発展させていくための施設として設立された浅草ものづくり工房で、どのような活動が行われているのかについての実態について明らかにする。既往研究から地域特性や都市空間に関しての研究がないため、本研究で若手育成の現状と事業継承の実態を調査することで地域産業を活かす可能性があるのかについての研究は新規性があると考えている。

1-3. 研究の方法

本研究では、浅草の皮革産業の実態とこれを実証するため、次の順序で研究を進める。

- ① 資料分析
- ② 現地調査
- ③ ヒアリング調査

1-4. 対象地について

浅草は古くから文化芸能の街として発展してきた。近年ではインバウンド拡大により国内外からたくさんの観光客が訪れている。観光地として豊かに発展させていく取り組みとして、浅草では浅草六区ブロードウェイが国家戦略道路占用事業として認定され、道路空間を活用したさまざまな取り組みが行われている。

2. 皮革産業の実態

台東区は、江戸時代より商工業の中心地の一つとして、小規模な手工業や製造業、それらの生産や流通を担う問屋、卸売業が集積する街として発展してきた。特に浅草はものづくりの街として、注目を集め様々なメディアにも取り上げられ、様々な取り組みが行われている。JAPAN ブランド育成事業について中小企業などが、海外展開やそれを見据えた全国展開のために、新商品・サービスの開発、改良、ブランディングや新規販売開拓などの取り組みを行う場合にその経費の一部を補助することにより地域中小企業の域外需要の獲得を図るとともに、地域経済活性化および、中小企業の振興に寄与することを目的としている（図1）。

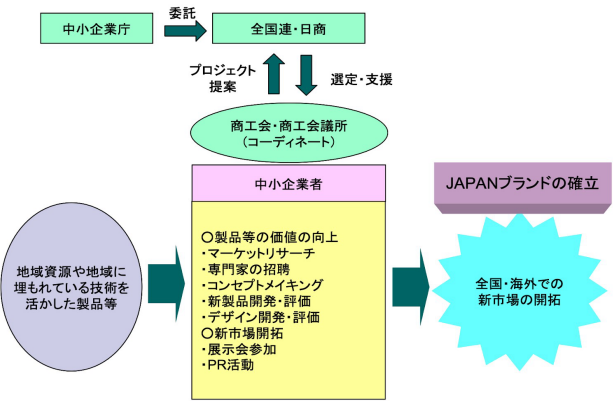


図1 JAPAN ブランド育成事業スキーム注（1）

3. 浅草ものづくり工房について

台東区では、地場産業の活性化を図り（図2）、ものづくりを担う事業者を育成する施設として、浅草ものづくり工房を運営している。この施設では、インキュベーションマネージャーを配置し、入居者の自立支援を行うとともに、地域との連携・交流を図り、区内での創業を目指す職人・クリエイターや、事業拡大を図ろうとする創業期の事業者を募集している。台東区の地場産業（靴、鞆、バッグ、ベルト、帽子、アクセサリ、ジュエリーなど）のものづくり分野を支え、将来の業界を担う職人・クリエイターなどを支援するための創業支援施設である。平成21年12月に設立され、台東区の地場産業である「ものづくり」を支える職人やクリエイターなどのサポートを行っている。浅草ものづくり工房では、経営やマーケティング、営業ネットワークづくりなど、多彩な支援を行っている。入居期間は原則3年で、ものづくりに適した環境が提供されているだけでなく、事業推進のための支援やアドバイスも受けることができる。



図2 台東区産業分布マップ^{注(2)}

4. 結論

ヒアリング調査や台東区のアンケートから、事業者間での交流がまだまだ希薄であるため、それを強化させる取り組みの必要があることが明らかとなった。

国家戦略道路占用事業や JAPAN ブランド支援時事的システムを利用し今後浅草にさらに若者が活躍できる場所と制度を再構築する必要がある。

浅草の皮革産業は、江戸時代から続く歴史の中で培われてきた地元の伝統技術と国内外から高い評価を得ている日本製品の信頼とメイドイン浅草のブランド力を活かして、地元ブランドを強化することで国際的に浅草の皮革産業の技術を広めることで市場を広げられる可能性が明らかになった。また、少子高齢化が進み、若手の職人やクリエイターが減っている現状でより若い世代の人々を皮革産業に巻き込むためには、ものづくり工房のようなインキュベーション施設を通して、老舗皮革業者との交流と技術教育を強化することで浅草の皮革産業の発展に繋がると考えられる。

さらに、浅草は観光地としても有名であり国内外から多く観光客が訪れる。そこで、観光客にも浅草の皮革産業の歴史や技術を広めるために、浅草ものづくり工房や奥浅草地域の交流拠点である SNAP での工房見学やワークショップを通じてこの皮革産業を観光資源として活用することで、観光客が実際に工房で制作過程を体験し、そこで商品を購入できるようにすることで国外においての浅草の皮革製品の宣伝にもなることが期待される。世界的に関心がある中で、皮革産業でもサステナブルな製造過程が必要とされるのでは無いかと考える。そのような取り組みの中で環境に配慮した皮革製品の開発が必要になると考えられる。近年のデジタル化する社会の中で観光客は SNS を通じて情報収集をすることが多いため、SNS での皮革産業の周知を広げることも重要であると考えられる。

以上から、本研究は浅草の皮革産業において、他の伝統工芸や地場産業とのコラボレーションを強化することで、新たなビジネスチャンスの創出可能性について考察してきた。また、浅草エリアで皮革製品の展示会や販売イベントを開催することで、認知度向上や新規顧客の獲得を目指す必要があるのでは無いかと考える。浅草の皮革産業の発展は、伝統技術を守りつつ、現代のトレンドや国際市場の需要に適応することによって大きな可能性がある。

注

(1)『平成16年度 JAPAN ブランド育成支援事業』日本商工会議所、全国商工会連合会、平成17年3月

(2)『台東区産業振興計画』台東区、平成29年

参考文献

(1) 慶應義塾大学商学部 牛島利明研究会 第13期生：地場産業×デザインの困難性—台東区皮革産業を例にして—

(2) 大阪経済大学専任講師 山本 俊一郎：地域資源のネットワーク形成による地域優位性の構築—東京都台東区アルティマリー事業を事例として—

(3) 台東区：台東区産業の現状と課題

(4) 台東区：台東区産業振興の実態調査